

①上位の政策名	政策目標2 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり	
②施策名	施策目標2-5 健やかな体の育成	
③主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) スポーツ・青少年局企画・体育課 (課長: 石野 利和) (関係課) 学校健康教育課 (課長: 作花 文雄) 参事官 (体力づくり担当) (参事官: 鈴木 隆)	
④基本目標 及び達成目標  ア= 想定した以上に達成 イ= 想定どおり達成 ウ= 一定の成果があが っているが、一部 については達成で きなかった エ= 想定どおりには達 成できなかった  (ア= 想定した以上に順 調に進捗 イ= 概ね順調に進捗 ウ= 進捗にやや遅れが 見られる エ= 想定したとおりに は進捗していない)	<p>基本目標2-5 (基準年度: 15年度 達成年度: 22年度) 児童生徒の健やかな体をはぐくむため学校体育の充実や子どもの体力の向上を図るとともに、児童生徒が健康で安全な学校生活を送られるような条件整備及び生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度の育成を行う。</p> <p>合計点 / (達成率) ア= 19. 2点以上 / (80%~100%) イ= 16. 8点以上 / (70%~80%) ウ= 14. 4点以上 / (60%~70%) エ= 12. 0点以上 / (50%~60%)</p> <p>合計: 16点 / (約66.7%)</p> <p>* 下記項目について、 ア=4点 イ=3点 ウ=2点 エ=1点として算出 (最高点24点)</p> <p>達成目標2-5-1 (基準年度: 15年度 達成年度: 22年度) 地域のスポーツ指導者を体育の授業や運動部活動に積極的に活用する取組を推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 各学校における地域のスポーツ指導者の活用人数 等 ア=5年前より1,000人以上増加している。 イ=5年前より1,000人未満増加している。 ウ=5年前から1,000人未満減少している。 エ=5年前より1,000人以上減少している。</p> <p>達成目標2-5-2 (基準年度: 15年度 達成年度: 22年度) 複数の学校でチームを編成する複数校合同運動部活動など他の学校や地域との連携等、中学校や高等学校において、運動部活動を活性化する取組を推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 中学生の運動部活動への参加率 ア=前年度より増加している。 イ=現状を維持している。 ウ=前年度より5%未満減少している。 エ=前年度より5%以上減少している。 高校生の運動部活動への参加率 ア=前年度より5%以上に増加している。 イ=前年度より5%未満増加している。 ウ=現状を維持している。 エ=前年度より減少している。</p> <p>達成目標2-5-3 (基準年度: 15年度、達成年度: 22年度) 子どもの体力の低下傾向に歯止めをかける。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 「体力・運動能力調査」の結果 ア=すべての項目で前年度より上昇。 イ=前年度より減少している項目が1つもなく、一部で上昇。 ウ=前年度より減少している項目がある。 エ=すべての項目で減少している。</p> <p>達成目標2-5-4 (基準年度: 15年度 達成年度: 19年度) 学校保健を充実し、児童生徒の健康増進を図る観点から、薬物乱用防止教育を充実するための取組を推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ・公立中学校・高等学校における薬物乱用防止教室の開催率 ア=薬物乱用防止教室の開催率が100%の場合 イ=薬物乱用防止教室の開催率が50~100%未満の場合</p>	<p>達成度合い又は進捗状況</p> <p>一定の成果は上がっているが、一部については達成できなかった。</p> <p>想定どおり達成</p> <p>想定どおり達成</p> <p>一定の成果は上がっているが、一部については達成できなかった。</p> <p>想定どおり達成</p>

	<p>ウ＝薬物乱用防止教室の開催率が20～50%未満の場合 エ＝薬物乱用防止教室の開催率が20%未満の場合</p> <p>達成目標2-5-5（基準年度：14年度 達成年度：18年度） 児童生徒等の安全を守るため、学校における安全確保のための取組を推進する。</p> <p>【達成度合い（進捗状況）の判断基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯マニュアルの活用状況</li> <li>・子どもの安全対応能力の向上を図るための取組の実施状況</li> <li>・通学路の安全点検の実施状況</li> </ul> <p>ア＝「活用している」または「実施している」が100%の場合 イ＝「活用している」または「実施している」が50～100%の場合 ウ＝「活用している」または「実施している」が20～50%の場合 エ＝「活用している」または「実施している」が20%未満の場合</p>	<p>一定の成果は上がっているが、一部については達成できなかった。</p>
	<p>達成目標2-5-6（基準年度：17年度 達成年度：21年度） 児童生徒に食に対する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるため、小・中学校における食育を推進する体制の整備を行う。</p> <p>【達成度合い（進捗状況）の判断基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭育成講習事業の受講者数</li> </ul> <p>ア＝学校栄養職員数に対する受講者数の割合が80%以上の場合 イ＝学校栄養職員数に対する受講者数の割合が50～80%の場合 ウ＝学校栄養職員数に対する受講者数の割合が20～50%の場合 エ＝学校栄養職員数に対する受講者数の割合が20%未満の場合</p>	<p>想定どおり達成</p>
<p>⑤現状の分析と今後の課題</p>	<p>各達成目標の達成度合い又は進捗状況（達成年度が到来した達成目標については総括）</p> <p>達成目標2-5-1 【平成17年度の達成度合い】 体育の授業や運動部活動における外部指導者の活用状況は、増加しており、想定どおりに達成と判断。</p> <p>達成目標2-5-2 【平成17年度の達成度合い】 運動部活動の参加率の推移を見ると、中学生は高い参加率を維持しており、高校生も年々増加傾向にあり、想定どおりに達成と判断。</p> <p>達成目標2-5-3 【平成17年度の達成度合い】 子どものものの体力の推移は、統計学上10年という期間で判断しないといけませんが、体力・運動能力調査の結果、前年度より減少している項目があることから、一定の成果は上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。</p> <p>達成目標2-5-4 【平成17年度の達成度合い】 文部科学省では、学校における薬物乱用防止教育を推進するため、学校における薬物乱用防止教室の開催の支援や教材の作成・配付等の取組を進めているところである。 薬物乱用防止教室の開催率は、平成16年度と比べ、17年度で公立中学校では1.5%、公立高等学校では1.2%上昇しており、薬物乱用防止教育等の取組を推進するという目標は達成できたと考えられる。 また、内閣府が実施した調査で覚せい剤に対する認識を問われ、「非常に恐ろしいものだと思う」と回答した15～19歳の者の割合が89%であり、平成11年の同調査から大幅に改善していることから、薬物乱用防止教育が一定の効果을あげていると考えられる。 なお、「薬物乱用防止新5カ年戦略」の計画期間を踏まえ、基準年度を15年度、達成年度を19年度に変更した。</p> <p>達成目標2-5-5 【平成17年度の達成度合い】 文部科学省では、平成14年度から学校の安全の充実に総合的に取り組む「子ども安心プロジェクト」を実施し、そのなかで、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」や学校における防犯教室の開催の支援等の各種施策を推進している。判断基準とした各項目の状況は、16年度から17年度にかけて改善しており、取組は一定の成果をあげていると考えられる。 しかし、通学路で子どもに危害が加えられる事件等が後を絶たない状況であり、一部については想定どおり達成できなかったとしている。そのため、引き続き、より実効性の高い安全の確保のための取組が継続的に行われるよう施策を推進していく必要がある。 なお、「子ども安心プロジェクト」が開始された時期を踏まえて、基準年度を平成14年度、達成年度を平成18年度に変更した。</p> <p>達成目標2-5-6 【平成17年度の達成度合い】 文部科学省では、栄養教諭育成講習事業の実施により、学校栄養職員が円滑に栄養教諭免許を取得できるよう支援を行った。学校栄養職員数に対する栄養教諭育成講習事業の受講者数の割合が高いことから、目標は想定どおり達成できたと考えられる。</p> <p>【平成17年度の達成度合い】 ○児童生徒の健やかな体をはぐくむため、学校体育の充実や子どもの体力の向上を図る必要が</p>	

成度合い又は進捗状況

ある。

→体育の授業や運動部活動において、地域の外部指導者の活用状況が増加していること、部活動への参加率について、中学生では高い水準を維持し、高校生でも増加傾向にあることから、想定どおり達成できていると判断。

また、子どもの体力については、前年度より減少している項目があるため、一部成果は上がっているものの、一部については想定どおり達成できなかったと判断。

以上より、児童生徒の健やかな体をはぐくむという目標については一定の成果は上げているものの、一部は達成ができていなかったと判断。

○児童生徒が健康で安全な学校生活を送られるような条件整備及び生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度の育成を行うためには、学校保健、学校安全、食育（学校給食）のそれぞれの分野で引き続き取組みを進めていく必要がある。

→学校保健の分野については、薬物乱用防止教育を推進する取組みが図られており、薬物乱用防止教室の開催率が前年より上昇していること、薬物乱用防止教育の教材の作成・配布が行われていることから、その取組みは想定どおり達成できていると考えられる。

学校安全の確保については、各種取組の実施率が前年度より上昇しており、想定どおりに達成できていると考えられる。

食育については、小中学校における食育の体制を整備する取組みが図られている。これについては、学校栄養職員が栄養教諭免許の取得を円滑にできるように取り組んでいる「栄養教諭育成講習事業」の受講者数の割合が高いことから、想定通りに達成できていると考えられる。

以上より、児童生徒が健康で安全な学校生活を送られるような条件整備及び生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度の育成を行う目標については、一部成果は上がっているものの、一部は達成ができていなかったと判断。

今後の課題  
(達成目標等の追加・修正及びその理由を含む)

達成目標 2-5-1

地域のスポーツ指導者を学校において活用することについて関係者に不安があったり、理解が不十分であったりすること、地域によってはスポーツ指導者を派遣するシステムが整備されていないこと、スポーツ指導者が安心して協力できる条件が整備されていないこと等から、地域のスポーツ指導者の協力を十分に得ているとは言えず、引き続き調査研究を実施する必要がある。

達成目標 2-5-2

運動部活動を活性化するため、複数校合同運動部や地域スポーツクラブとの連携だけでなく、総合運動部など新しい部活動の取組も一層推進していく必要がある。

達成目標 2-5-3

子どもの体力低下は昭和60年頃より低下傾向が続く深刻な問題であるため、引き続き、学校・家庭・地域が連携して子どもの体力の重要性に関する普及啓発、子どもの運動習慣や望ましい生活習慣の形成等に取り組むよう、各種方策を行っていく必要がある。特に、子ども・保護者に対する普及啓発に関しては、これまで実施してきた取組に加えて、より直接的・体験的な普及啓発を行う必要がある。

達成目標 2-5-4

薬物乱用防止教育については、従来より、薬物乱用防止教室の開催の支援や教材の作成・配布等の取組を行っているところであるが、少年の覚せい剤事犯の検挙人員が依然として高い水準であり、また近年 MDMA 等合成麻薬事犯の検挙人員が増加している状況等を踏まえ、薬物乱用防止教室開催の支援の継続的な実施等、薬物乱用防止教育に関する施策を推進する必要がある。

達成目標 2-5-5

学校安全については、平成14年度から、学校安全の充実に総合的に取り組む「子ども安心プロジェクト」を推進し、その一環として、学校安全ボランティアを活用した効果的な安全体制の整備を推進する「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」や防犯教室の開催の支援等を行っている。今後は、学校や通学路における事件等が大きな問題となっている状況を踏まえ、引き続き地域社会全体で児童生徒等の安全を確保する体制の整備を推進するとともに、不審者情報等の子どもの安全に関する情報を関係者間で迅速に共有できるシステムの構築等、各学校、各地域における対策が効果的かつ継続的に講じられるよう、通学路を含む学校安全の確保に関する施策を推進する必要がある。

達成目標 2-5-6

学校における食育については、平成17年度から開始された栄養教諭制度を円滑に実施するため、学校栄養職員が栄養教諭免許状を円滑に取得できる講習を開設するための事業について、引き続き取り組んでいく必要がある。

また、平成17年7月に施行された「食育基本法」や18年3月に策定された「食育推進基本計画」等を踏まえ、食育のさらなる推進を図るため、栄養教諭を活用した取組の実施や学校給食の充実等の施策を推進する必要がある。

評価結果の18年度以降の政策への反映方針

達成目標 2-5-1

引き続き、外部指導者の発掘・養成・活用に関する調査研究を実施していく。

達成目標 2-5-2

運動部への参加率を向上させるため、気軽に運動部に所属できるよう柔軟な運営ができるようにする必要がある。

達成目標 2-5-3

子どもの体力低下の原因には、体力に関する国民の意識の低さ、都市化・生活の利便化などの生活環境の変化、睡眠や食生活などにおける生活習慣の乱れといった様々な要因があることを踏まえ、これまで実施してきた子どもの体力向上に向けた各種方策を引き続き実施するとともに、児童生徒・保護者に対する普及啓発に関しては、より直接的・体験的な普及啓発を新たに実施する。

達成目標 2-5-4

薬物乱用防止教育については、引き続き薬物乱用防止教室の開催の支援や教職員・保護者等を対象とした薬物乱用防止の普及啓発のためのシンポジウムの開催等を行うとともに、新たに、MDMA 等合成麻薬の危険性を啓発するための、中高生を対象とした地域フォーラムの開催等、薬物乱用防止教育に関する取組の一層の推進を図る。

達成目標 2-5-5

学校安全については、引き続き「子ども安心プロジェクト」を実施し、防犯教室の開催の支援や「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」において、防犯の専門家や警察官・OB等の協力の下、各学校の巡回指導等を行うスクールガード・リーダーの全国展開を図るとともに、新たに、ITを活用した「子どもの安全に関する情報の効果的な共有システムに関する調査研究」を実施することとしている。

また、各学校において適切な学校安全の取組が推進されるよう、各種会議等の場において引き続き指導していくことにより、学校安全の確保に関する取組の一層の推進を図る。

達成目標 2-5-6

学校における食育については、各都道府県の現職の学校栄養職員が栄養免許状を円滑に取得できるようにするための講習会の開催等、従来の取組を引き続き推進するとともに、新たに、「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」、食育において生きた教材である学校給食の充実を図るための「地域に根ざした学校給食推進事業」等、食育に関する取組の一層の推進を図る

⑥指標	指標名	13	14	15	16	17	
	学校の体育の授業や運動部活動に対する地域のスポーツ指導者の活用状況(人) (達成目標 2-5-1 関係)	25,282 (H12)	—	—	—	34,430	
	中学生の運動部活動への参加率(%) (達成目標 2-5-2 関係)	67	67	67	67	67	
	高校生の運動部活動への参加率(%) (達成目標 2-5-2 関係)	35	36	37	39	40	
	体力・運動能力調査の結果 (達成目標 2-5-3 関係)	S 6 0					
	持久走(13歳男子)(秒)	366.40	393.56	388.65	388.07	383.68	調査中
	持久走(13歳女子)(秒)	267.11	288.61	294.98	287.34	283.57	調査中
	立ち幅跳び(9歳男子)(cm)	158.53	146.85	147.11	145.49	146.24	調査中
	立ち幅跳び(9歳女子)(cm)	147.30	138.03	137.00	136.92	137.57	調査中
	ソフトボール投げ(11歳男子)(m)	33.98	29.94	30.86	30.42	30.19	調査中
	ソフトボール投げ(11歳女子)(m)	20.52	17.26	17.49	17.19	17.15	調査中
	体力・運動能力調査の結果の低下率 (達成目標 2-5-3 関係) ※()は上昇率						
	持久走(13歳男子)(%)	2.10	(1.25)	(0.15)	(1.13)		調査中
	持久走(13歳女子)(%)	(1.42)	2.21	(2.59)	(1.31)		調査中
	立ち幅跳び(9歳男子)(%)	1.58	(0.18)	1.10	(0.52)		調査中
	立ち幅跳び(9歳女子)(%)	0.91	0.75	0.06	(0.47)		調査中
	ソフトボール投げ(11歳男子)(%)	1.61	(3.07)	1.43	0.77		調査中
	ソフトボール投げ(11歳女子)(%)	(1.35)	(1.33)	1.72	0.23		調査中
	薬物乱用防止教室の開催率(公立の中学校) (達成目標 2-5-4 関係)(%)	55.7	54.0	56.7	58.0	59.5	
	薬物乱用防止教室の開催率(公立の高等学校) (達成目標 2-5-4 関係)(%)	71.9	70.1	68.9	70.3	71.5	

	15～19歳の者で、覚せい剤は「非常に恐ろしいものだと思う」と回答した割合 (達成目標2-5-4関係)(%)				(H11) 79.2	89.0
	防犯のマニュアルを活用している学校 (達成目標2-5-5関係)(%)			96.3	96.4	
	子どもの安全対応能力の向上を図るための取組 (達成目標2-5-5関係)(%)			66.7	69.8	
	通学路の安全点検の実施状況 (達成目標2-5-5関係)(%)			95.5	96.2	
	学校栄養職員数に対する栄養教諭育成講習事業受講数の受講者数の割合 (達成目標2-5-6関係)(%)	-	-	-	-	57.9
参考指標	学校体育の授業を好きと答えた割合(小学生)(%) (平成16年度調査のみ)	-	-	-	80.8	-
	学校体育の授業を好きと答えた割合(中学生)(%) (平成16年度調査のみ)	-	-	-	63.9	-
	国公立学校等の学校栄養職員の数 (達成目標2-5-6関係)(人)				12,138	
	栄養教諭育成講習事業受講者数 (達成目標2-5-6関係)(人)					7,023
⑦評価に用いたデータ・資料・外部評価等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○達成目標2-5-1 外部指導者の活用状況に関する調査(企画・体育課調べ)</li> <li>○達成目標2-5-2 (財)日本中学校体育連盟による運動部活動実態調査 (財)全国高等学校体育連盟による運動部活動実態調査</li> <li>○指標2-5-4のデータ <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用防止教室の開催状況(文部科学省)</li> <li>・薬物乱用対策に関する世論調査(内閣府)</li> </ul> </li> <li>○指標2-5-5のデータ <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全管理の取組状況に関する調査(文部科学省)</li> </ul> </li> <li>○指標2-5-6のデータ <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭育成講習事業受講者数(文部科学省)</li> </ul> </li> </ul>					
⑧主な政策手段 (過去に新規・拡充事業について)	政策手段の名称 (上位達成目標 [17年度予算額])	政策手段の概要			17年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)	
	運動部活動地域連携実践事業 (達成目標7-3-3) (達成目標7-3-4) 【66百万円】	単独の学校の枠を超えた複数校合同による運動部活動の推進や地域スポーツクラブとの連携に関する実践的な研究を行うことにより、運動部活動の活性化を図る。			各地域において、地域の特性に応じた取組が推進された。	
	運動部活動等における外部指導者の発掘・養成・活用に関する調査研究 (達成目標7-3-3) (達成目標7-3-4) 【100百万円】	運動部活動等における外部指導者の発掘・養成・活用に関する具体的な方策に係る調査研究を行うことにより、都道府県教育委員会が実施する運動部活動等における外部指導者の配置事業の質的向上を図る。			運動部活動だけでなく体育の授業においても外部指導者の活用が推進された。	
	体力向上キャンペーンの展開 (達成目標2-5-2) [125百万円]	子どもの体力を向上させるための全国的な普及啓発事業を実施する。			子どもの体力向上に関するタウンミーティングを3カ所(東京、山口、福岡)において開催した。キャンペーンポスターを全国の小学生から公募し、優秀な作品について表彰し、全国の幼稚園・小学校に配布した。パンフレットを作成し、全国の幼稚園児・小学生の保護者に配布した。	
	子どもの体力向上実践事業 (達成目標2-5-3) [241百万円]	子どもの体力の現状等を把握するとともに、地域の実情に応じて目標を設定し、その目標を上回ることを目指して実践活動を行い、子どもの体力向上や望ましい生活習慣の形成を図る。			32都府県42地域において実践事業を行っている。	
	スポーツ・健康手帳の作成・配	スポーツや健康に関する情報を盛り込み、子どもたちが日常的に活用			スポーツ・健康手帳、外遊びスタンプカードを作成、全国の小学校に配布し、スポー	

<p>布 (達成目標 2-5-3) [126 百万円]</p>	<p>できる「スポーツ・健康手帳」、及び子どもたちが自ら進んで外遊び・スポーツに取り組む動機付けとなる「外遊びスタンプカード」の作成・配布を行う。</p>	<p>ツや外遊びに積極的に取り組むことを呼びかけた。</p>
<p>薬物乱用防止教室の推進 (達成目標 2-5-4) [28 百万円]</p>	<p>薬物乱用防止教育の充実を図るため、警察官、麻薬取締官〇Ｂ等の外部講師に対する講習会を実施。</p>	<p>〔得られた効果〕 多くの公立中学校・高等学校で薬物乱用防止防止教室が開催され、薬物乱用の危険性等についての理解が深まった。</p> <p>〔事務事業等による活動量〕 薬物乱用防止教室推進事業では、39 都道府県教育委員会において事業が実施された。</p>
<p>「子ども安心プロジェクト」 (達成目標 2-5-5) [1,020 百万円]</p>	<p>地域社会全体で学校の安全確保に取り組む体制の整備や防犯教室の開催の支援等、学校安全の充実に総合的に取り組む「子ども安心プロジェクト」を実施。</p>	<p>〔得られた効果〕 多くの地域で子どもの安全を見守るボランティアによる巡回が行われるとともに、各県で防犯教室が開催され、学校安全に対する取組が推進された。</p> <p>〔事務事業等による活動量〕 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業は、61 地域で実施された。 防犯教室推進事業は、60 地域で実施された。</p>
<p>「食育推進プラン」 (達成目標 2-5-6) [393 百万円]</p>	<p>子どもたちが単なる知識でなく、食に関する実践力を身に付けられるよう、食生活学習教材の作成・配布、食に関する指導シンポジウムの開催、学校を中心とした食育推進事業及び学校における食育の推進を図るための取組を実施。</p>	<p>〔得られた効果〕 食に対する関心が高まり、小中学校における食に関する指導の取組が増加するなど一定の効果が得られた。</p> <p>〔事務事業等による活動量〕 食生活学習教材の作成・配布では、全国の該当する児童生徒全員に配布した。 食に関する指導シンポジウムは、東京都、長崎県の2 か所で開催し、両地域とも満席であった。 学校を中心とした食育推進事業は、43 都道府県 79 地域で実施された。</p>
<p>⑨備考</p>		
<p>⑩政策評価担当部局の所見</p>	<p>※達成目標 2-5-5 について、地域ぐるみの安全対策の状況を把握するための指標を設定することを検討すべき。</p>	



## 施策目標2-5 健やかな体の育成 平成17年度の実績評価の結果の概要

